とくしまの100年企業 —⑥—

福岡化学工業（徳島市）

履物へのこだわり貫く

ビジネスシューズ「Wilson」、カジュアルシューズ「AIR」といった自社ブランドの紳士靴を展開する福岡化学工業（徳島市）。全国の靴専門店やスーパー、ホームセンター、ネット通販などを通じて幅広く販売されている。

とりわけビジネスシューズは軽量、低反発といった機能性に加え、優れたコストパフォーマンスが特長。定番商品に絞り、大ロット生産で価格帯を1足5千円前後に抑えている。

4代目の福岡泰一郎社長（44）は東京での会社勤めを経て2000年にUターンした。当時、会社は職人の高齢化に直面しており、02年に中国への生産移転に着手。それまで婦人靴や子供靴も手掛けていたが、紳士靴に集中すると決め、一部のサンダルに使っていたWilsonのブランドをビジネスシューズ用に再構築し、05年に発売した。「後継者として悪戦苦闘する中で、ないものの探しをやめ、あるもの探しをした。限られた資源を最大限活用した」と振り返る。

□■

福岡化学工業は長年にわたり徳島の履物業界をリードしてきた。初代で泰一郎社長の曽祖父に当たる福岡義雄氏が1922年6月、徳島市住吉でげたの製造を始めたのが始まり。戦前から全国に販路を広げ、「げた産地」として徳島の名を知らしめた。順調に売り上げを伸ばし、54年に「福岡木材工業」の名で法人化した。

しかし間もなく、生活様式の変化に伴い、げた産業が衰退する。逆転の一打を放ったのが2代目の祖父・真雄氏で、画期的なビニールサンダルを開発した。ミシンで縫合する既存品と異なり、高周波による電気熱でビニールを溶着して完全防水を実現。60年に履物業界として初めて全国発明表彰を受けている。サンダルメーカーへと転換を図り、61年に「福岡化学工業」に。「スーパーフジトビウオ」印のサンダルは海外にも輸出された。

業界に先駆けてキャラクター商品にも着目し、「鉄人28号」「ジャングル大帝」といったアニメ番組に加えてビートルズともライセンス契約を結び、高度経済成長の波に乗って業容を拡大していった。父で3代目の俊雄氏は中央大在学中から、Wilsonをはじめとするブランドを商標登録し、今の紳士靴ラインアップの礎を築いた。

□■

業界有数のメーカーに成長し、昭和期のピーク時には数百人の職人を抱え、1日1万足を生産した。現在は年間生産50万～60万足の9割以上を中国法人の工場が引き受け、徳島の従業員約20人は営業や管理業務を担当するなど、会社の様子は様変わりしている。

福岡社長は今後も紳士靴のシェア拡大を図る考え。「当社は履物にこだわり、時代の変化に対応してきた。変化すべき時が来れば恐れずに挑戦する」と強調する。「スペイン風邪が収束した翌年に創業した。新型コロナウイルス後の100年を見据え、社員一同頑張っていきたい」と語った。

（廣井和也）

＝随時掲載





【上】紳士靴製造・卸を手掛ける福岡化学工業の福岡泰一郎社長。同社には数十年愛されているロングセラー商品も多い【下】サンダルで発明賞を受け、取材を受ける2代目の福岡貞雄氏（右）＝1960年ごろ（同社提供）、いずれも徳島市新南福島2

(C)徳島新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。